

# 事業計画図

【現状】“地域と歩みを共にする大学”としてのブランドイメージは、さまざまな取り組みを通して、定着しつつあるが、新入生アンケート(平成29年度実施)では、「地域に強い大学」という印象を得て本学の受験を決めたと回答する割合は充分とは言えない。  
【地域の課題】“子育て支援”は、この地域が抱える最も重要な課題の一つ。

## 「6つの戦略」は、地域活性化にかかわる将来ビジョン達成のための取り組みの内容

### 【地域活性化にかかわる将来ビジョン】

1. 教育 (ビジョン1)
2. 研究 (ビジョン2)
3. 社会貢献 (ビジョン3)

〈本学—地域〉の一体感を組織体制として明示化し、「地域と歩みを共にする大学」としてのポジショニングを図る。

#### 戦略1

地域の子育てを支える『地域子育てプラットホーム』を組織し、地域の子育てが抱える現実的課題の把握、その打開に向けた施策の計画・実施に努める

#### 戦略2

地域住民を対象に、履修証明プログラムを通して「子育て支援士」を養成し、『地域子育てプラットホーム』の体制を強化する

#### 戦略3

本学学生を『地域子育てプラットホーム』の構成員に位置づけ、責任をもって地域の課題に取り組む体制を整える

本学が果たす教育・研究・社会貢献の中心の一つに、地域の子育て支援に関する課題に応えるタスクがあることを、本学が中心となって行う取り組みをもって明示化し、地域との距離感の近接化、〈本学—地域〉の一体感の確立を図る。

#### 戦略4

『子育て総合支援施設』において、学童保育やその他子育て支援に関するサービスを提供する

「地域と歩みを共にする大学」としてのブランドイメージをもって本学の存在が広く認知され、受験者数の安定的確保に結び付くよう、戦略的広報に取り組む。

#### 戦略5

『地域子育てプラットホーム』の取り組みを広報し、社会的に広く「地域と歩みを共にする大学」としてのブランドイメージの確立を図る

#### 戦略6

『地域子育てプラットホーム』の取り組みの様子を中高生にも広く広報し、受験生の確保の場面においても「地域と歩みを共にする大学」としてのブランドイメージの確立を図る

## 「事業の目的」は、本学の将来ビジョン達成の途上において、特に今回の研究ブランディング事業で目指す目的。

→この目的の達成は、本学の将来ビジョン達成の道程の中間点となる。

子どもの成長を核とするまちづくりを地域と協働して行う。

3つの目的を果たし、  
“地域と歩みを共にする大学”のブランドイメージを  
学外に広く発信し、その定着を図る。

①

長田区及び隣接区において、

『子育て総合支援施設』を主な活動場所として、  
地域の子どもの成長を支え続けられる組織体制  
『地域子育てプラットホーム』の構築を図る。

②

本学が持つ専門力を駆使して、

地域が抱える子育て支援をめぐる課題の全貌と、  
地域に潜在するソーシャルキャピタルを発掘、強化

3つの目的

③

本学が有する研究力を駆使して、

「地域子育てプラットホーム」を通して取り組まれる一連の方策が果たす効果、  
とりわけ貧困家庭にある子どもたちの成長に対する効果を、  
包括的に検証する。

「事業の目的」の達成の延長上に  
本学の将来ビジョンの達成がある

### 【本学の将来ビジョン】

#### ■教育■

- ①自ら主体的に学び続ける力を持ち、豊かな人間性と高度な専門性を身につけた人材を育成する
- ②誰一人欠けることなく、学生一人ひとりの学びと成長を約束する
- ③地域をフィールドに、真に生きた知識・スキルを修得できる多様な機会を提供する

#### ■研究■

- ①地域活性化に資する研究を、全学を挙げて促進させる
- ②大学教育の質的向上に資する研究を、全学を挙げて促進させる

#### ■社会貢献■

- ①地域における知の中核として地域活性化に貢献する
- ②地域の健康を支える中核的役割を果たす
- ③地域の教育力を支える中核的役割を果たす

赤色は地域活性化にかかわる将来ビジョン  
本事業は主に赤色の将来ビジョン達成への取り組み

将来ビジョン達成への取り組み